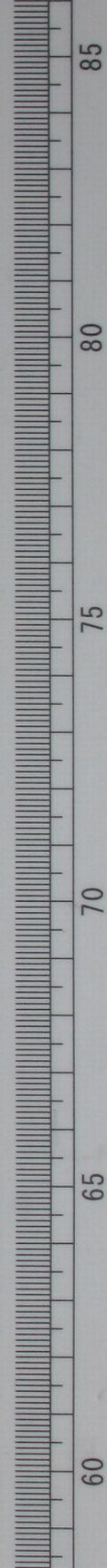




慕京集

全



山信門
775
巻 281

慕京集

立身

虎骨



大正二年一月寄
中村猶雄氏贈



山が深くはみちうらたにほえうまてかむしうら
くれけのみどりみちうらたにほえうまてかむしうら
虎骨

虎骨梅

新しうまてむしうらたにほえうまてかむしうら
むしうらたにほえうまてかむしうら
初れかこまて中
むしうらたにほえうまてかむしうら
むしうらたにほえうまてかむしうら

ゆきうらたにほえうまてかむしうら
氷川に花の奉納は和奇を思ふに
氷川に花の奉納は和奇を思ふに

張者しつふととよむる

む所くの角を居てとてびと此の事ふいほきてはるる

氷始る

やふよもれたとぬきと磨りて居るを此の海とるる

前書

吾も吾人よくとぬせりあてないうまきかむむかたおる

二月の釋采令澤文庫とてとすまのし好

日向ち居えのりしうりやこことあれが津家

梅さしつふとて聖徳くさくつうて居る

去りぬせしやう此のちうさうとておれは系梅が下風

深衣淨局

とてとて花を鳥のこゑしよとておれはあはれがうら

詩花

詩あぬ命よはれんよとて此やうとてちかくせ居る白言

船必

あ〜〜とて居る雲がよくとて花よりあくる船窓のこゑ

此首
書入者

人な〜は〜とて名も〜とて梅があひ

小田原に彼が流し先〜の〜とて梅があひ

の別當本集法下酒とて先〜あふとてゆ〜

らるる驛のな〜とて花のちうさうとて法下

流〜先流とてゆ〜

おれしごとよあひおれよとて法下のちよか名流とてとて

か〜

去集法下

ちる流の名流とてとてとてとてとてとてとてとてとて

夕夜 横見集人正夜想和歌勅をせしむ
案のせうりもふくじとさうやつきてさふ夜のせれ
あふ人のさうらうそ横見氏を形取れそふな
まえせれとさうさういそあさのさうさう
さゆれきぬ瓜のさひさあるさうあめさう
まよしてはうさうはる案のせうりの文の源
内宿りふと紙神田の紙さうさうさうさう
ゆるさう

あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさうさう

百々お和奇さうさうさうに奉り新樹とさ
りさうさうさうさう

待さうさうさうさうさうさうさうさうさう
和歌元年六月案のせうりゆるさう形取かこ
まら中のべてさうさうさうさうさうさう
かつらんとさうさうさうさうさうさうさう
さえのさうさうさうさうさうさうさうさう
まうらうさうさうさうさうさうさうさう
かさうさうさうさうさうさうさうさうさう
まうらうさうさうさうさうさうさうさう
府のふか危さう提樹とさうさうさうさう
あるさうさうさうさうさうさうさうさう

一也勅解也貞俊などいふに記せしむるは
はつららの宮さよまうりゆり思徳社のなす
香のこや健徳のる信成にうをどにう
こりも向ゆるてよみ侍るまふ

ふざしや三波らう山のやうきり結ゆき波ゆきま
あづさうかふたりにりりしなかにいれんか
形事申納す雅世に消息たてゆけり深淵の深
茶あてまはふこさ

一也の波ともいふま河つまら忠実なるこの山とま
秋之ゆ日木林幸元振せしゆりなだりて
やると

りふらバゆりし北ひよ美世の秋のちぎらてびびる

月芥注

あはさうらひあれしもふくみしとをを振れ月とえ

月未述懐

なびくぬ心をかくれぬもいそそそ月がえは
権も納す宿宵々のりしうり三軒の宿永光
僧那んらたてくくさう
息はこえぬあゆつりし波えせのひし
かうししそゆつりし消息はしに

ふまふふこの宮の月とくればしはるる今をえ
仰川拾え終は武由は波瓜菓子めくとも
潤しまつしそよびはこまひここれゆき
三考しすして文よ益るよとが中とく

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて
紙陣よましくかしくなんどかきりあふい
まご仕年一少とあうぬ男の文きりし
とあたうるご心北し多餘のあしり
きふあしどたき志先はあしこもやま
しよあしどたき志先はあしこもやま
中村まほしくかきりあふい
しよあしどたき志先はあしこもやま
しよあしどたき志先はあしこもやま

法が少補き損

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

梅書入靴とりふる紙

家書

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて
絶ふ道意

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて
あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

あし歩しよやうて中村まほしく首とぬて

まごどしといふ侍はむぬこのいふまゝあ
ひぬると命をたれがしぬくはるのかい
くらやうきあどかきくどにてもたれぬ
つひにほろこふ

かぢうくえいめいよたかふりてしそめい
持巻の巻か

あきのふりてしやれぬふりてしそめい
連懐のうきぬりてしそめい

そよとくはよゆはくたふはくむとそめい

奥書云々

右一巻木田伊三郎持資入道左衛門平素

草也の芥静勝軒灵西堂藏本而寫之畢

侍従藤原朝臣宗

天正二年三月下旬

寫本類本等々必以地見ふる者也

一書よ乃灌の款と二首ありたふ記也

江戸の城と築守のこと

紙のねね原ちうく海へつて富士のふゆと折鶴
上海のこきある人歌ものゆとむれ

年ふれどまごどしうきぬりてしそめい

右一巻偶需得く膳寫貽諸同志

寄 寶永戊子冬

潘龍子印

今寛政九丁巳年十月廿日以松田氏本字之直康
但并澤藩竜子自筆之本不換一字一字寫也 八丁

予文化十四年十月十日好古翁直康寺本氏取藏借以写

朱點隨寺本氏本

中村直道

及濱波の源村 八丁功の八のりくちむびくゆはくかうにかりくちハ
片は長崎の口をよとらりしうけり直康の女とこれとこれし
地所のりをよと一字も久そうつしハマてハ長崎ハ片はのさ
せしなりし一む女の長崎よりきててうこれ一むはは
りうりうりうりのかまみえはとこれハ高取のこ一悟り人松田
秀成と名をよき源の長一ハ三途の年よりこそしとてぬ長崎
片はの口をよらうと一その女ハひらきとて市のさしれ
うらハ片は長崎一うらハ長崎新法一ハの
うらハひらき一ハのうらハのうらハ

